

1. 千早赤阪水道事業の概況

千早赤阪村の水道事業は、給水人口の減少や更新費用の増加に伴う給水原価の上昇などの課題に対応していくため、平成 29 年度に大阪広域水道企業団（以下「企業団」という。）と経営統合し、千早赤阪水道事業として企業団が運営している。

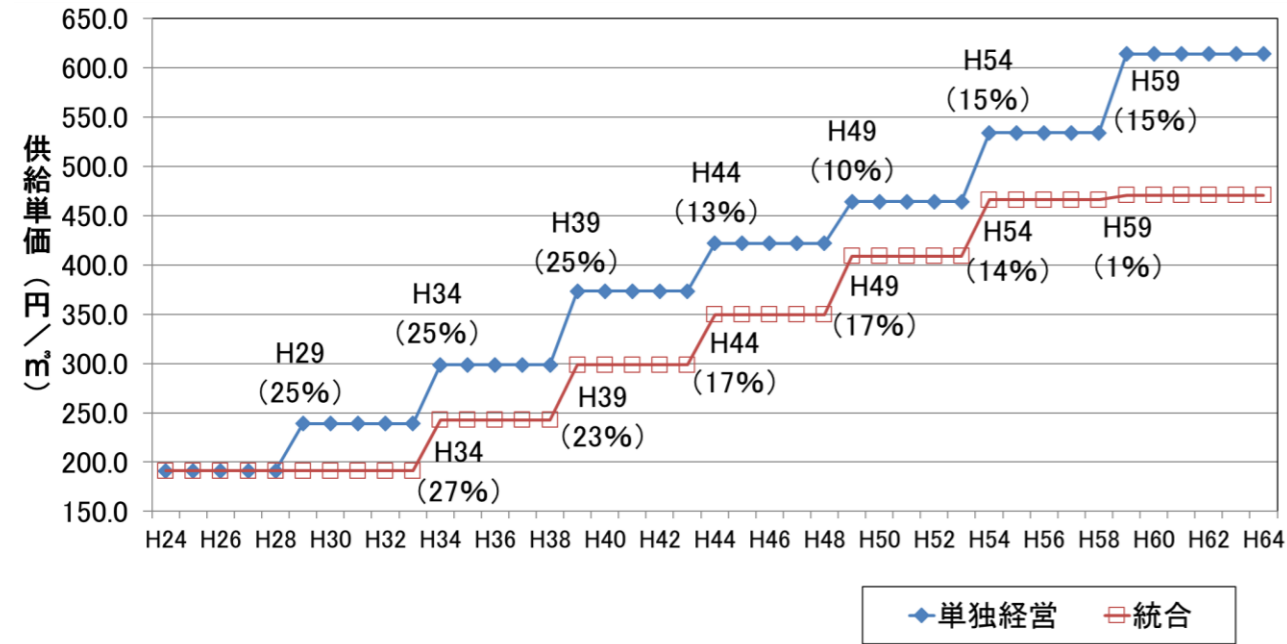


図1 統合案における経営シミュレーション

統合後も給水人口の減少に伴い、年間給水量が減少しており、令和元年度の給水人口は 4,855 人、年間有収水量は 539 千 m³ である。

施設の状況としては、村内に 2 つある浄水場（岩井谷浄水場、千早浄水場）による自己水に加え、企業団の水道用水供給事業から受水（川野辺受水場）しており、自己水と受水の比率は概ね 7 : 3 である。

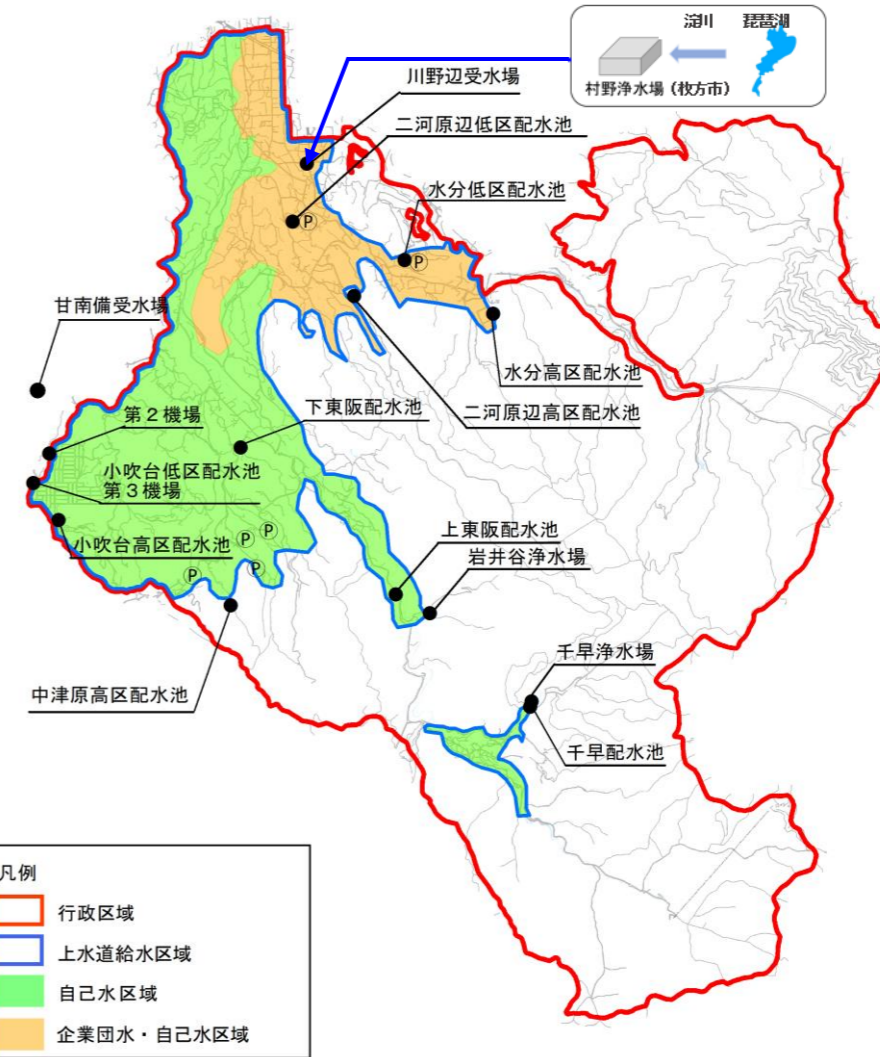


図2 給水区域と施設位置図

表1 千早赤阪水道事業の概況と財政状況

項目	単位	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	備考
給水人口	人	5,278	5,165	5,045	4,930	4,855	年度末給水人口
年間給水量	千m³	738	761	731	699	641	
（自己水）	千m³	500	488	487	486	446	
（受水）	千m³	238	273	244	213	195	
年間有収水量	千m³	588	585	581	558	539	
有収率	%	79.7	76.9	79.5	79.8	84.1	年間有収水量 / 年間給水量
収益的収入 （うち料金収入）	千円	137,383 (112,167)	169,012 (112,385)	174,481 (112,040)	165,536 (107,876)	182,150 (104,131)	
収益的支出	千円	141,814	179,177	164,125	155,141	170,915	
純利益	千円	△4,431	△10,165	10,356	10,395	11,235	収益的収入 - 収益的支出

2. 水道事業の現状と課題

【水需要の動向】

・人口は昭和 60 年をピークに減少しており、これに伴い、有収水量も今後大幅に減少する見込みである。

【耐震化・老朽化対策】

・各種耐震化率は低水準であるとともに、管路の経年化も比較的進行しており、施設の耐震化及び経年化に対応するため、計画的な更新が必要である。

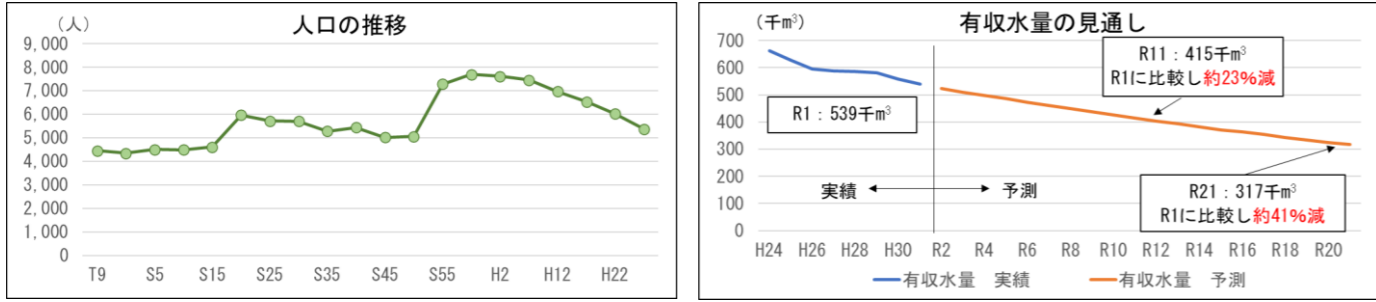
【水の有効利用】

・有収率等は低水準であり、水の有効利用の観点からも管路更新等の対応が必要である。
・有収密度は低く、効率の低い事業環境下にある。

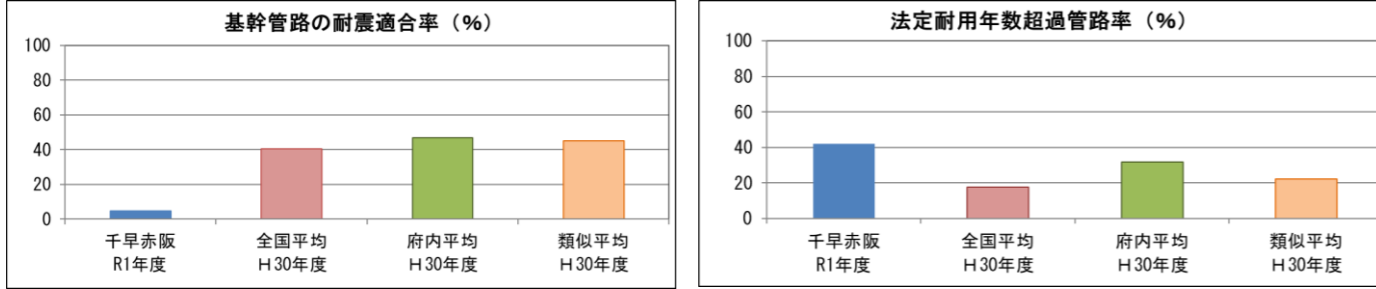
【経営】

・水道の供給に係る費用を料金で回収できておらず、今後も、有収水量の減少により状況のさらなる悪化が見込まれる。

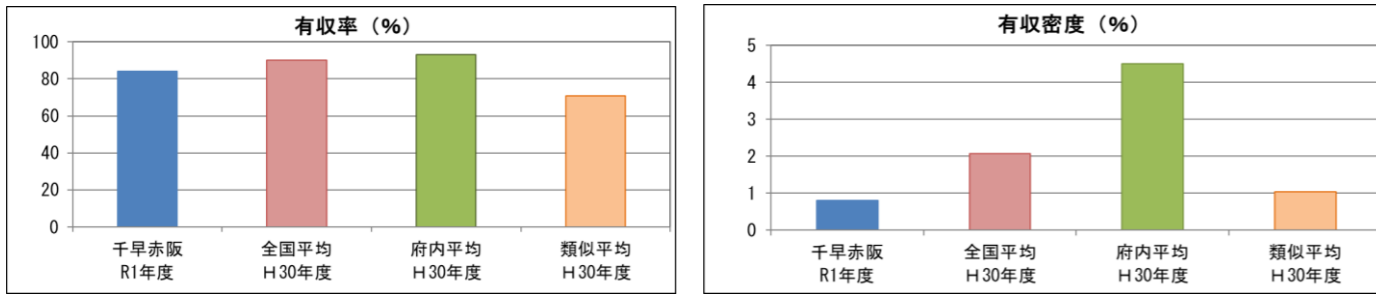
【水需要の動向】



【耐震化・老朽化対策】



【水の有効利用】



【経営状況】

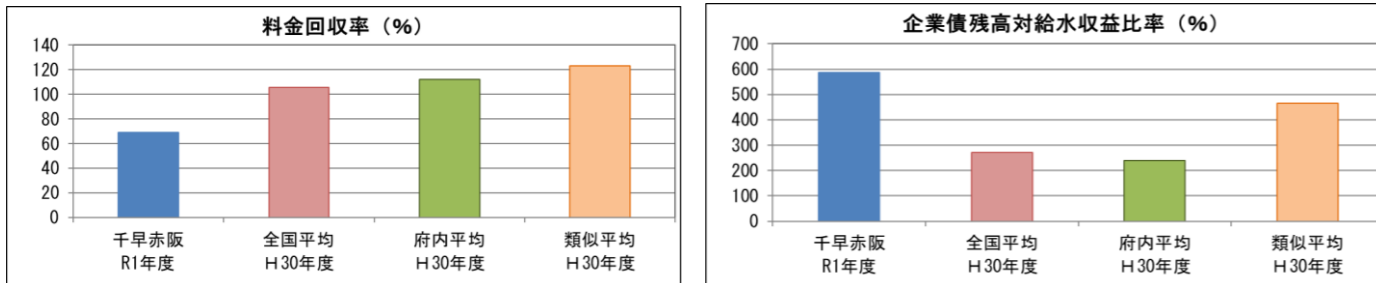


図3 主要な指標等

3. 水道料金の概要

千早赤阪水道事業の水道料金は用途別料金体系とし、基本料金には基本水量を設定せず、従量料金では使用水量分の料金をいただいている（二部料金制）。また、従量料金は使用水量が多くなるほど単価が高くなる逓増制を採用している。

表2 水道料金表（1か月分）（税抜）

用途	基本料金	従量料金（1m³につき）	
一般用	500円	1m³～10m³	120円
		11m³～20m³	140円
		21m³～30m³	170円
		31m³～40m³	190円
		41m³～	210円
業務用	3,700円	1m³～	220円
臨時用	3,700円	1m³～	620円

表3 メーター使用料（1か月分）（税抜）

口径	13mm	20mm	25mm	30mm	40mm	50mm	75mm以上
料金	92円	185円	370円	555円	740円	2,777円	4,629円

【計算例】一般用利用者（メーター13mm使用）が20m³使用した場合の水道料金

（基本料金（500円）＋従量料金（120円×10m³＋140円×10m³）＋メーター使用料（92円））×1.10＝**3,511円**

【使用水量例】一般用及び業務用における代表使用水量の水道料金

表4 一般用の代表使用水量での水道料金（税抜）

	10m³	20m³	30m³
基本料金	500円	500円	500円
従量料金	1,200円	2,600円	4,300円
メーター使用料（13mm）	92円	92円	92円
合計	1,792円	3,192円	4,892円

使用水量20m³の場合：全国平均2,996円、府内平均2,612円、類似平均3,744円

表5 業務用の代表使用水量での水道料金（税抜）

	10m³	100m³	200m³
基本料金	3,700円	3,700円	3,700円
従量料金	2,200円	22,000円	44,000円
メーター使用料（40mm）	740円	740円	740円
合計	6,640円	26,440円	48,440円

4. 料金体系の動向

料金体系は、口径別料金体系と用途別料金体系の二つに大別することができる。口径別料金体系とは、料金の格差基準をメーター又は給水管の口径の大小に置いているものであり、用途別料金体系とは、各需要者の水道の用途を基準として、料金格差を設定しているものである。

過去10年間の料金体系別の推移は、口径別料金体系は5.1%増加しているのに対し、用途別料金体系は4.4%減少しており、全国的に口径別体系を採用する事業者が増加していることがわかる。

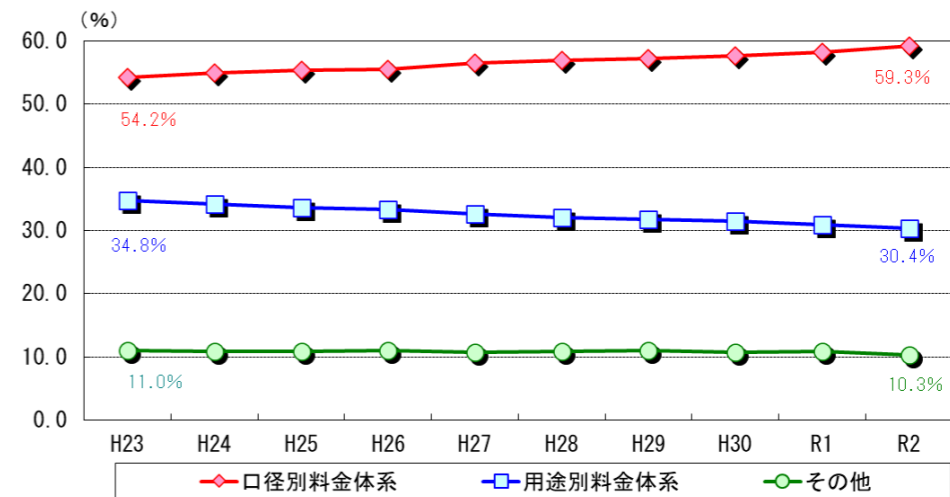


図4 過去10年間の料金体系別の推移